

【城南信用金庫×地域連携センターのプロジェクト型協働インターンシップ】実践報告
堀内 美紀・鈴木 清江

Project Activity Report on “Collaborative Internship of The Johnan Shinkin Bank and
Center for Community Cooperation”

Miki Horiuchi, Kiyoe Suzuki

1.はじめに

当該プロジェクト型協働インターンシップは昨年に続き2回目。3年生6名が参加し、アドバイザー2名体制で7月から1月まで活動を行った。産学提携による地域の活性化を狙いとして、昨年度は大学周辺を取材した情報誌『さんちゃさんぽ』（20代～30代の女性向けに三軒茶屋のグルメ紹介；A5サイズ）を制作したが、今回は城南信金の東北被災地支援活動の一環として「東北を元気にする情報誌を作ろう！」と取材を東北へと広げることになった。このプロジェクトには、東北支援に関心があり出版・広報・金融関係の仕事に興味を持つ学生が参加し、企画・取材・情報誌作成について経験・学習する機会となった。

2. 社会貢献活動 “東北を元気にする情報誌” 作成と多様な体験活動

城南信用金庫では、2012年4月から地域のコミュニティづくりや新たなビジネスのきっかけとなるよう毎月“企業と地域を結ぶ情報コミュニケーション誌”『うめナビ』を発行している。2013年からは東北被災地支援として地元信金と共に東北版も創刊した。そして今回、商品や観光の面から“東北を元気にする情報誌”を学生達で作ることになった。

さらに、情報誌作成の過程で学生は城南信金主催の「よい仕事おこしフェア」（9月8～9日、国際フォーラム）に参加し、事前に取材企業や地元信金の方々と交流すると共に接客を体験し、東京新聞が会場で配布する号外に記事を書く記者体験も加わった。10月2日の東京新聞には「東北の思い逸品に乗せ」と6名の取材記事が掲載され、伝えるべき情報を精査し記事にすることの難しさと喜びを体験することにもなった。



今回のプロジェクトで学生は、情報誌作成を核に多様な体験をすると共に、時間的にもかなりハードな活動を求められ、多くを学ぶことになった。

3.プロジェクト始動

7月中旬に顔合わせをしてすぐ、学生たちは“東北復興を目指して”をコンセプトに決め、岩手・宮城・福島の企業に絞り込み下調べを始めた。情報誌の内容は、東北の企業紹介をベースにし、商品の売り上げ、観光に繋げていくことにした。読者の中心は、城南信用金庫の顧客。学生たちには信金を訪問し、どんな人たちが足を運ぶのかを観察した上で、情報誌の体裁、内容を決めてもらうことにした。調査結果では、年配者が大半を占めることから、50歳以上の年代層に向けた情報誌を目指すことになった。

学生たちが誌面で紹介したいと選んできた6企業は、食の視点で復興を目指す企業、女性の働く場を提供する企業など、どれもストーリー性があり興味を惹かれるものだった。東北という離れた地域のため、学生たちが現地を訪問できるのは1度きり。9月後半の現地

取材のため取材項目、紹介誌面のレイアウト、撮影してくる写真等打ち合わせを行った。また、首都圏の人々が東北に足を運ぶことを期待して、都内にいながら東北を感じられる各県のアンテナショップも掲載することとし、8月中旬に2人1組で取材を行った。アンテナショップの取材や9月のフェア参加は東北取材の良い準備となった。

4. 東北現地取材と誌面作成

本格的な現地取材は9月後半。交通手段と取材の段取りを考え、学生2人1組で各県に向かい、現地信金の誘導で企業を取材した。我々アドバイザーは、取材・撮影のやり方に加え取材の姿勢を説いた。学生たちは早い決断と行動、また想像以上に豊かな発想で、取材報告をまとめ上げていった。特にたたき台としてリーダーの学生が作ってきたページは最初の段階から読み応えがあった。事前取材で企業の方々と上手に人間関係を作った学生たちはのちに社員の方々の自社製品に対する思いを知ることになり、それを伝えたいという熱い思いがこちらにも伝わってきた。



10月以降、アドバイザーとして、学生が制作した誌面の記事や画像、レイアウトを細かくチェックし、学生と何度もやりとりをした。4時間以上にわたる会議や深夜朝方にかけてのメールをやりとりした。最初の読者として我々が最も重要視したのは、内容が自然に入ってくるかどうかであり、“情報の受け手に立つ”姿勢を促した。情報を伝える側にいると、最初は自分が知らなかったことでも、いつの間にか皆が知っているような気分になって記事を書いてしまうからだ。かなりの難題を度々出すことになったが、学生たちはそれに応えてくれた。



5. 発行そして今後の課題と提言



12月後半まで修正に修正を重ね、2016年1月『結～yui～』は発行となった。タイトルには読者と東北の縁を結ぶ意味と、困難に負けない東北の絆という意味を込めた。年配の人々に手に取って貰いやすいB5サイズとし、9500部を城南信金各店舗と東北の信金、東北企業、都内アンテナショップなどに置く予定である。学生たちが書いた誌面には、東北企業の方々が復興に向け真摯に仕事に向き合う姿勢に心打たれたという内容に溢れていた。この熱意ある情報誌制作プロジェクトは、学生たちが実社会を体験したこと以上に今後の人生においても大変意義あるものになるであろう。

今後、このプロジェクトを学生のインターンシップとして更に実りあるものとしていくためには、活動期間を1カ月ほど増やし、情報誌に関する調査・研究の時間を取り、目指す情報誌のあり方をより明確にすることや、情報誌作成の制作費についておおよその金額が提示されると、さらにビジネス体験に近いものになると思う。